

第 3 部

男女共同参画に関する市民団体等意識調査

男女共同参画に関する市民団体等意識調査（調査結果概要）

1 調査目的

男女共同参画に関する市民団体等の意識などを把握し、「第3次たかまつ男女共同参画プラン(仮称)」策定の基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進の参考資料とする。

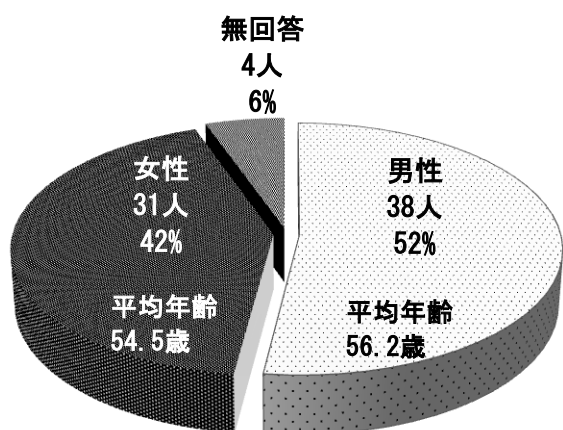
2 調査設計

- (1) 調査期間 平成22年8月12日～8月25日
- (2) 調査対象 市内市民団体等 100団体
- (3) 調査方法 郵送によるアンケート方式

3 回収結果

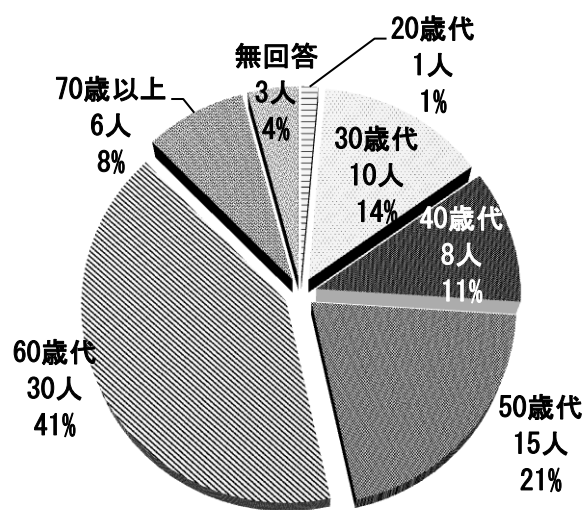
回収数 73団体

【回答者の男女の比率】



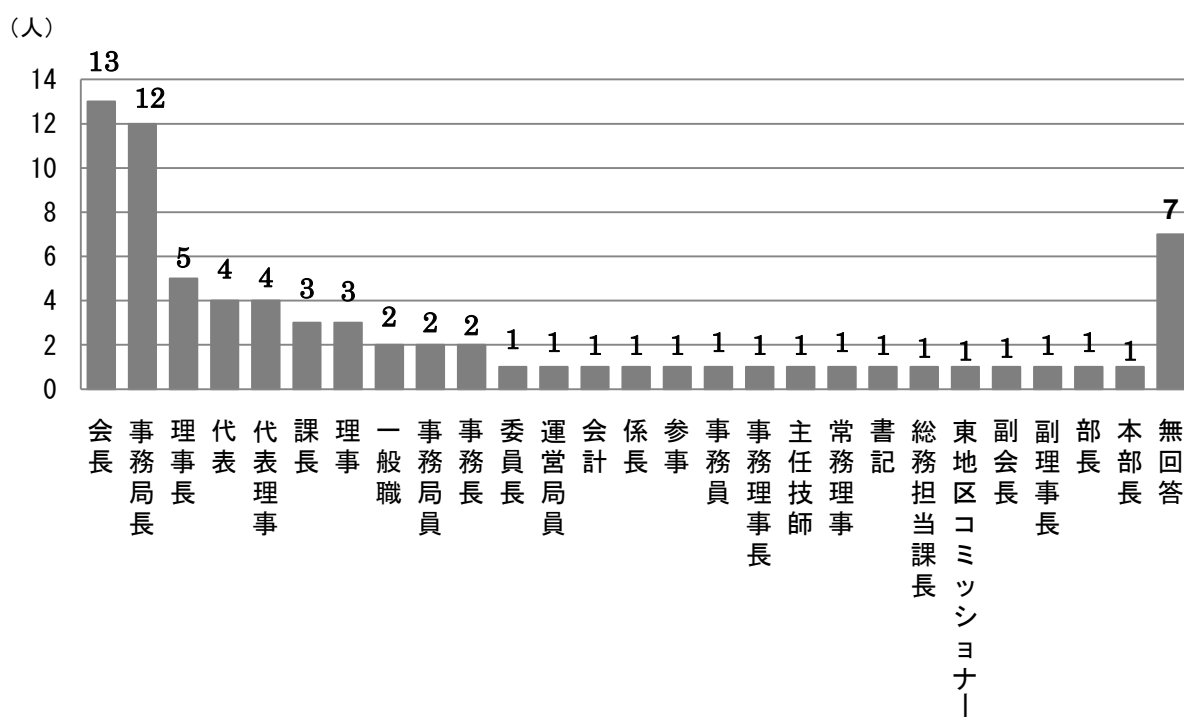
回答者 73人中

【回答者の年齢別割合】



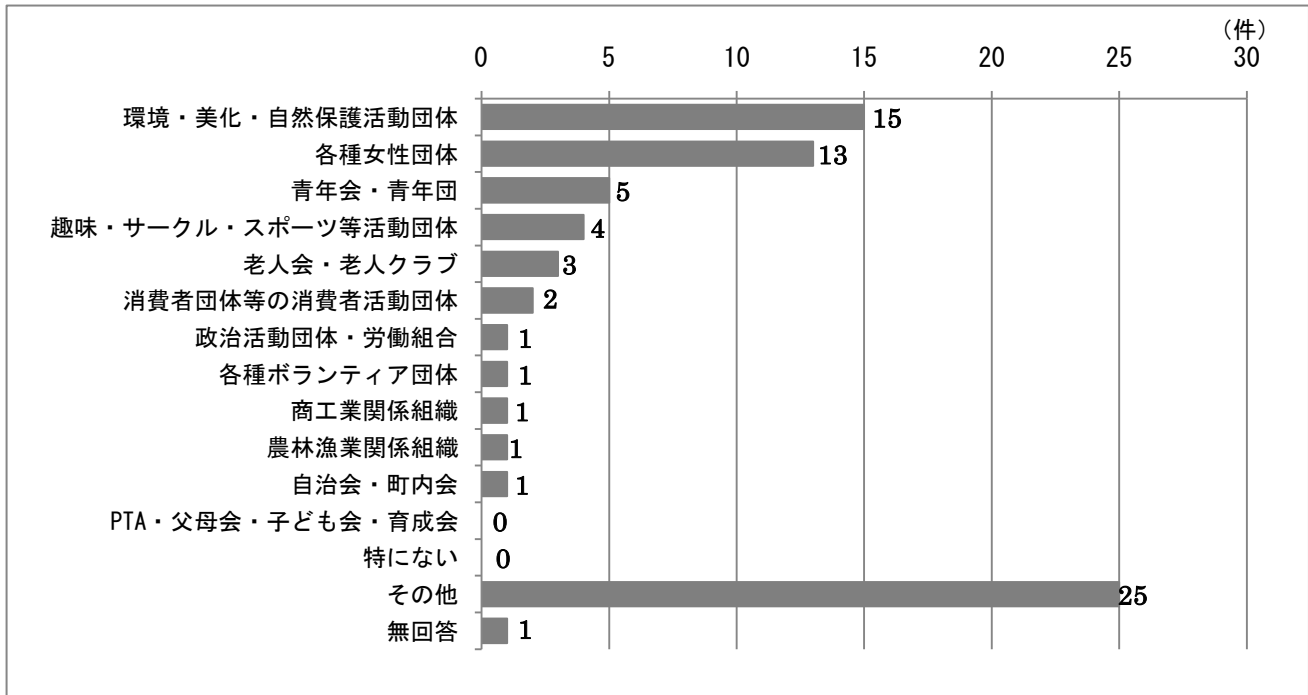
回答者 73人中

【回答者の役職】



回答者 73人中

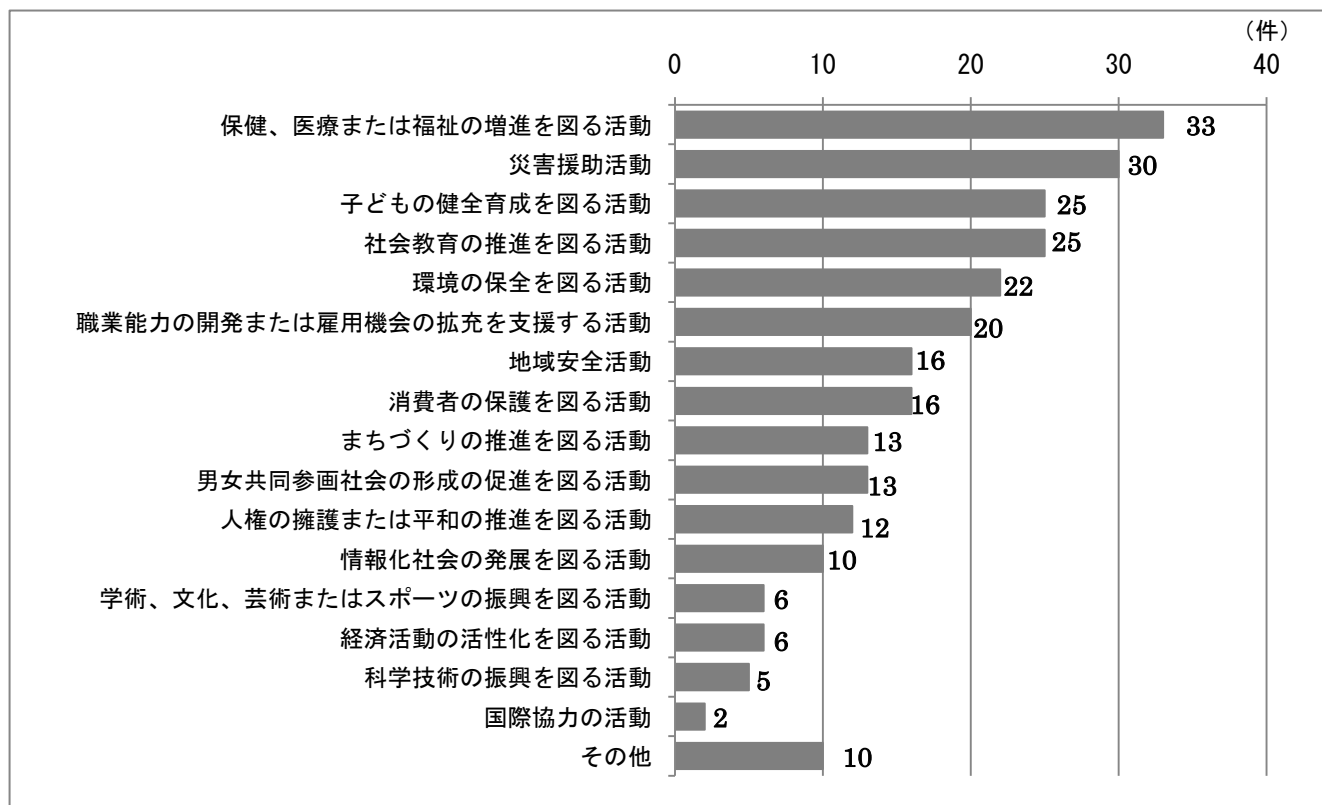
問1 貴団体は、次のどれに当てはまりますか。当てはまるものを1つ選んでください。



○ その他

- 1 県私立中学高等学校連合会
- 2 歯科医学の進歩発展及び公衆衛生の普及向上等を図る団体
- 3 中間支援団体
- 4 歴史，民族，文化財保護活動団体
- 5 男女共同参画啓蒙活動劇団
- 6 建設業関係組織
- 7 労働者及び高齢者福祉に関する活動
- 8 介護事業と専門職能団体
- 9 社会福祉協議会
- 10 ボーイスカウト
- 11 福祉団体
- 12 純粋な男女共同参画を学び討論し男女共同参画社会作りの推進に向けて着々と推進していく
公益法人
- 13 NPO 法人 医療関連団体
- 14 非営利団体
- 15 財団法人
- 16 有償ボランティア，地域活動，介護保険事業（訪問，在宅介護，障害者）
- 17 障害者就労支援
- 18 高松市婦人団体連絡協議会

問2 貴団体の主な活動目的を選んでください。（特に当てはまるものを5つ選んでください。）



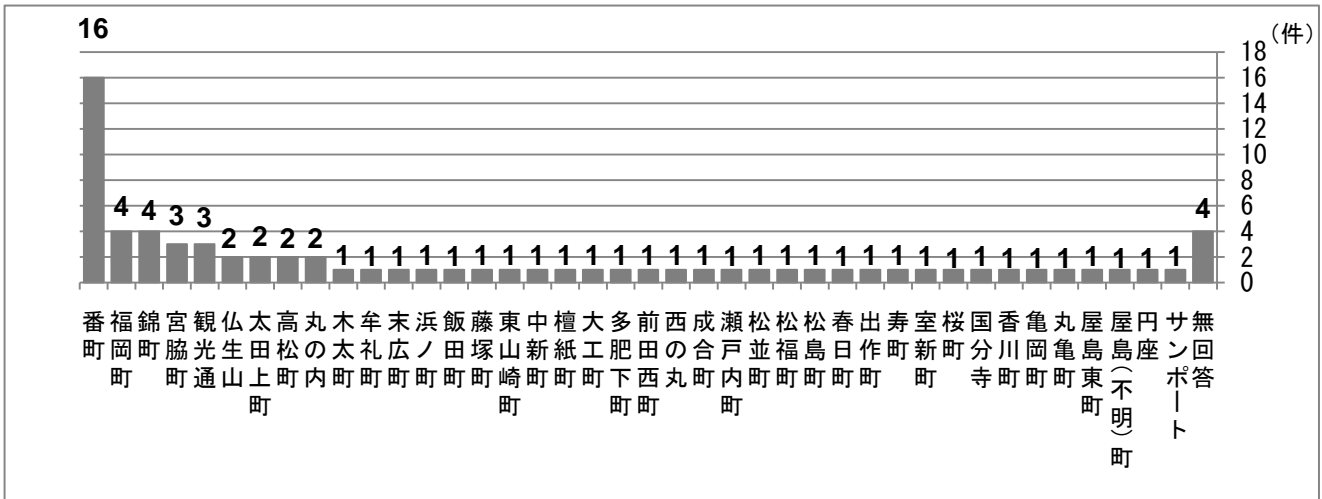
○ その他

- 1 農業技術の研究活動
- 2 市民活動の促進
- 3 生活環境の改善，環境美化の推進，公衆衛生の向上
- 4 歴史民族文化財保護活動団体
- 5 農業の振興を図る活動
- 6 生活相談活動
- 7 福祉の啓発活動
- 8 火災予防
- 9 犯罪非行の防止

【全体】

団体の主な活動目的のうち，回答が多かったのは，保健，医療または福祉の増進を図る活動（33件），災害援助活動（30件）であり，次いで，教育に関する活動（子どもの健全育成を図る活動（25件），社会教育の推進を図る活動（25件））となっている。

問3 貴団体の所在地をお聞きします。所在地はどちらですか。

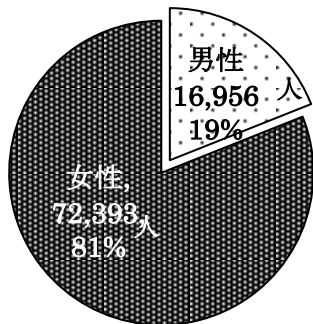


【全体】
 団体の所在地のうち、回答が多かったのは、番町（16件）、福岡町（4件）、錦町（4件）であった。

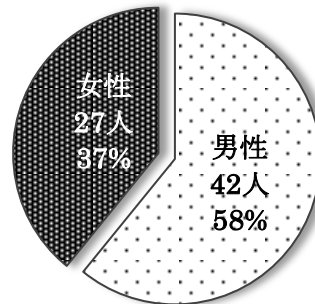
問4 貴団体の会員数などをお聞きします。

1 全会員数における男女の割合

2 全会長 96 人における男女の割合



全会員数
 311,477 人
 ※14団体(222,128人)においては男女の内訳が不明のためデータには含んでいない。

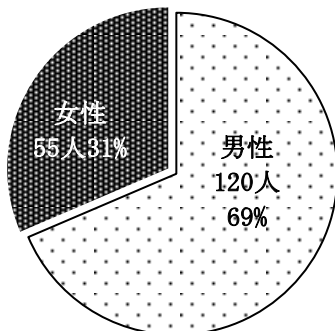


無回答 6 団体

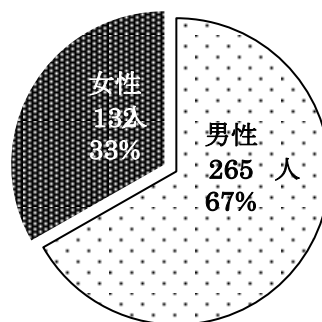
3 全副会長 175 人における男女の割合

4 全支部数 380 件

5 全支部長の男女の割合



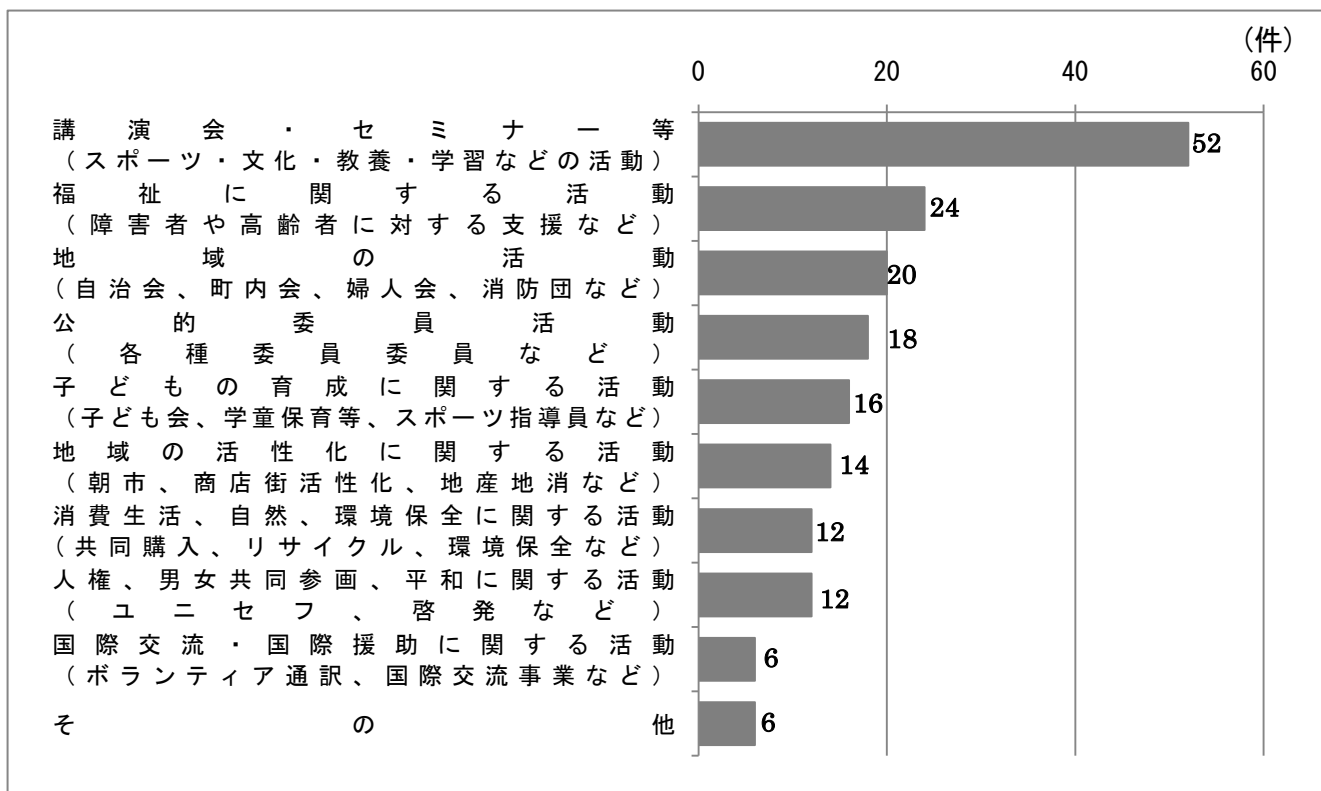
無回答 6 団体



支部があるのは30 団体

【全体】
 団体の全会員数における男女の割合は、女性が81%となっており、男性の4倍以上となっている。しかし、全会長における男性の割合は58%、全副会長における男性の割合は69%、全支部長における男性の割合は67%となっており、男性が団体の代表的な立場を占めている傾向にある。

問5 貴団体は過去5年間で、どのような活動をしましたか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

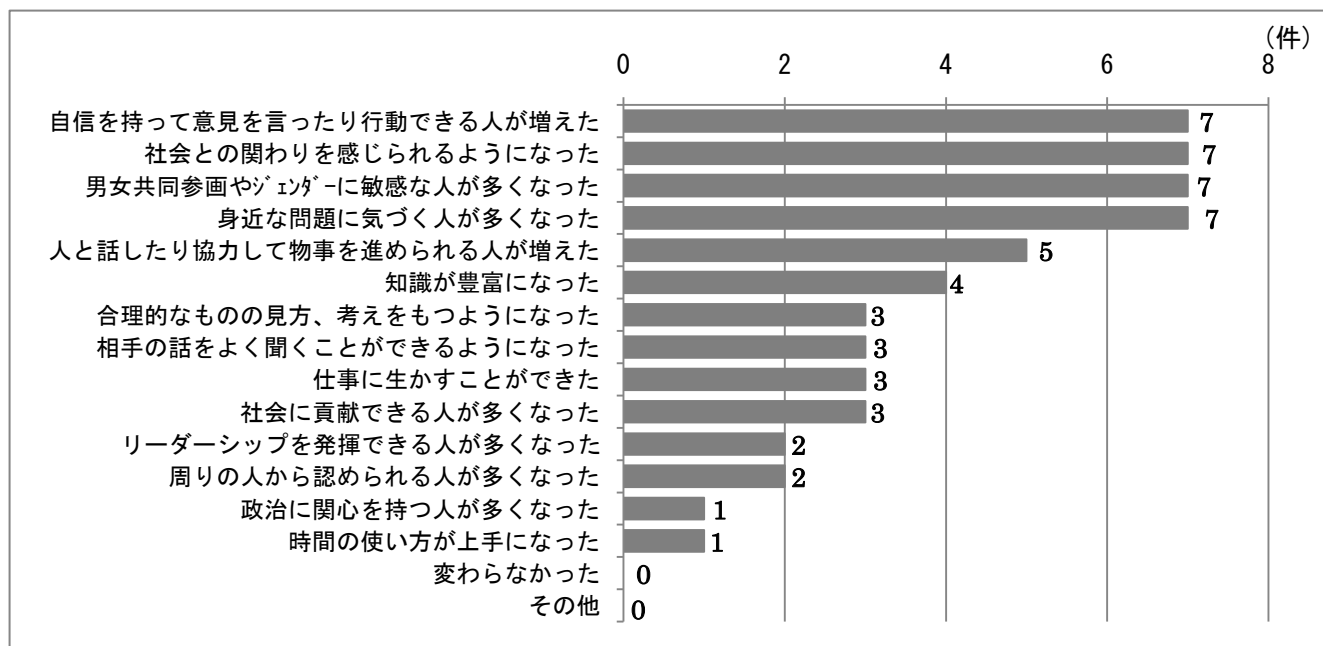
- 1 生活相談活動
- 2 企業、個人対象の資格取得

【全体】

団体の過去5年間の活動のうち、最も回答が多かった、講演会・セミナー等（スポーツ・文化・教養・学習などの活動）が、52件と全体の28%を占めている。

問6 問5で「人権，男女共同参画，平和に関する活動（ユニセフ，啓発など）」と答えた団体にお聞きします。

上記の活動をした結果，参加者や地域はどう変わりましたか？特に当てはまるものを5つまで選んでください。また，どのような活動をしましたか。下欄に具体的に記入してください。



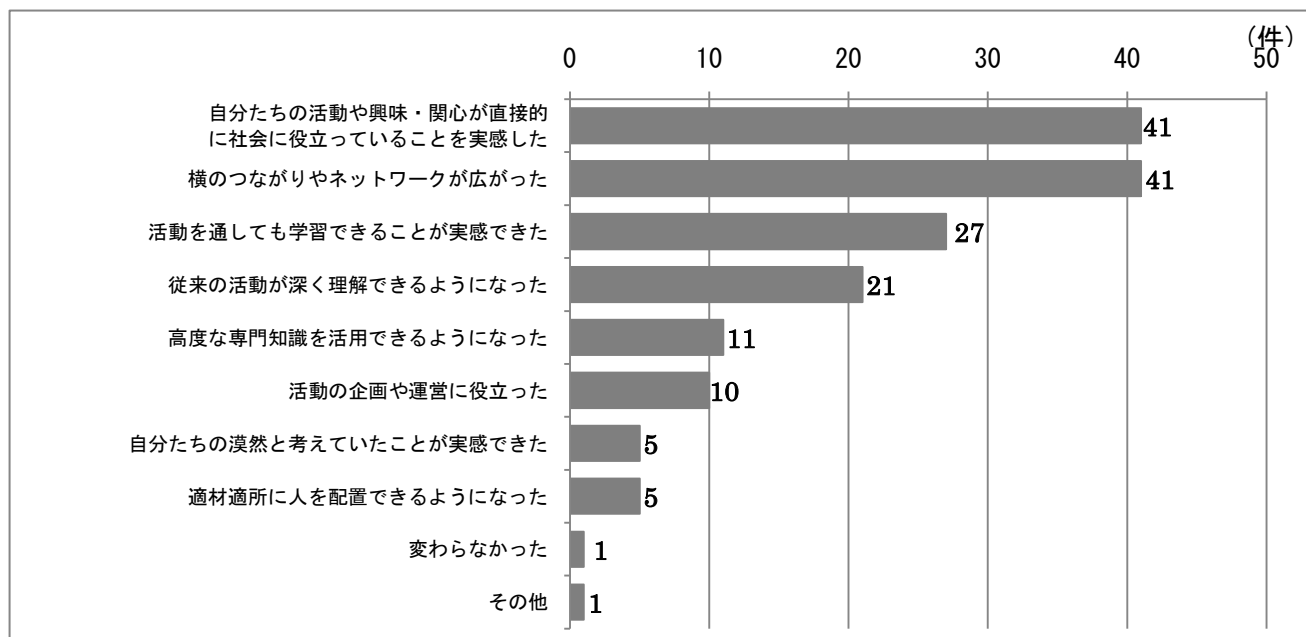
【全体】

この活動によって，自身をもって意見を言ったり行動できる人が増えた（7件），社会との関わりを感じられるようになった（7件），男女共同参画やジェンダーに敏感な人が増えた（7件），身近な問題に気づく人が増えた（7件）という回答が最も多く，全体の50%を占めている。

【参加者や地域に特に影響を与えたとされる活動内容】

- 1 男女共同参画について分り易く寸劇で演じ，各地域のコミュニティーセンターを通じて交流を図る
- 2 香川女性のキャリア支援アドバイザー養成講座で作成した「私のキャリア手帳」を使った講座で，事例発表を行い，参加者との交流を通して意見交換ができたことや，その中で女性が働き続けられなかった背景や男性と違った働き方を通してメリット・デメリットを再確認できたという学びの声を多く頂いた。
- 3 高校生や大学生らを引率して海外スタディーツアー実施
- 4 高松と同種の研修を実施（坂出，東かがわ市，観音寺市等）する等，自分たちの研究を地域に還元するよう地域での活動に参加して啓発に努めている。
- 5 親子を対象にした事業（環境・教育）により啓蒙啓発ができた。
- 6 食育推進活動によりネットワークが広がった。主に地域や学校など。
- 7 子どもの虐待防止に関する啓発活動，講演会や育児中の親及び子に関わる人たちを対象とした研修会や各種会議（県市 etc）での提言や，子育てフェスティバルなどでの活動紹介
- 8 講演会や電話相談
- 9 地域の安全安心なまちづくりを積極的に取り組んでいる（防災訓練，交通安全キャンペーン，女性防犯クラブ）
三世代交流事業を行い地域のコミュニケーション活動の活性化を図っている（お月見（スローライフ）ふれあい祭り，おひな祭り等）

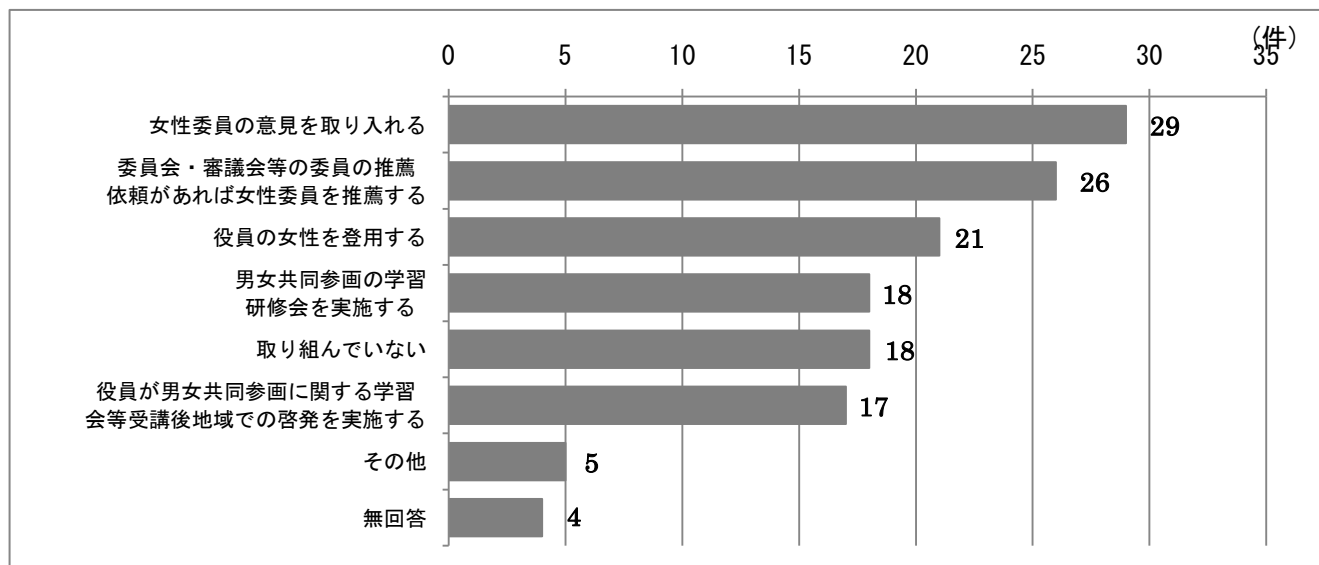
問7 問5の活動をした結果、あなた自身はどう変わりましたか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



【全体】

自分たちの活動や興味・関心が直接的に社会に役立っていることを実感した（41件）、横のつながりやネットワークが広がった（41件）という回答が最も多く、全体の50%を占めている。

問8 貴団体は男女共同参画社会づくりにどのように取り組んでいますか。特に当てはまるものを3つ選んでください。



○ その他

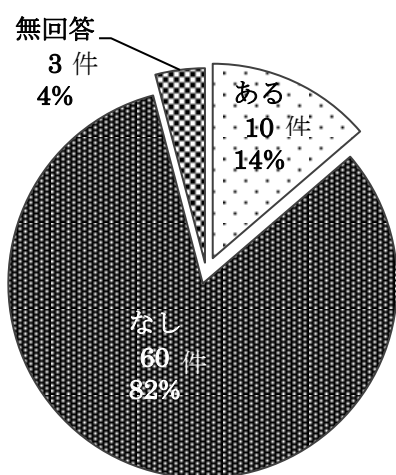
- 1 男女共同に関する行動計画の指導や子育て・介護に関する指導を行っている
- 2 会員のほとんどが女性であり、当会では男性の意見を取り上げるよう努めている

【全体】

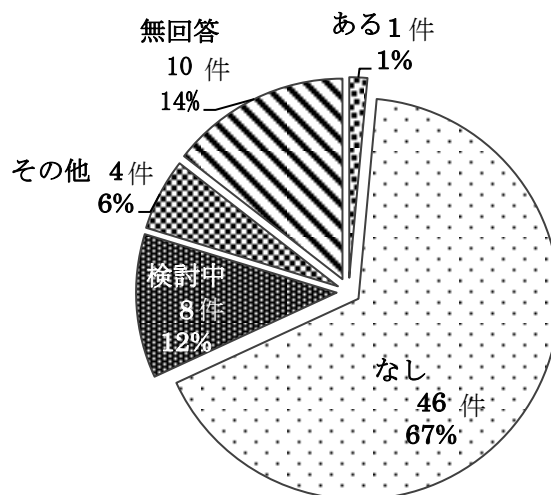
回答が多かった取組は、女性委員の意見を取り入れる（29件）と、委員会・審議会等の委員の推薦依頼があれば女性委員を推薦する（26件）であり、全体の33%を占めている。

一方、取り組んでいないという回答が18件、全体の11%を占めるので、今後も継続して男女共同参画社会づくりの取組を推進していく必要がある。

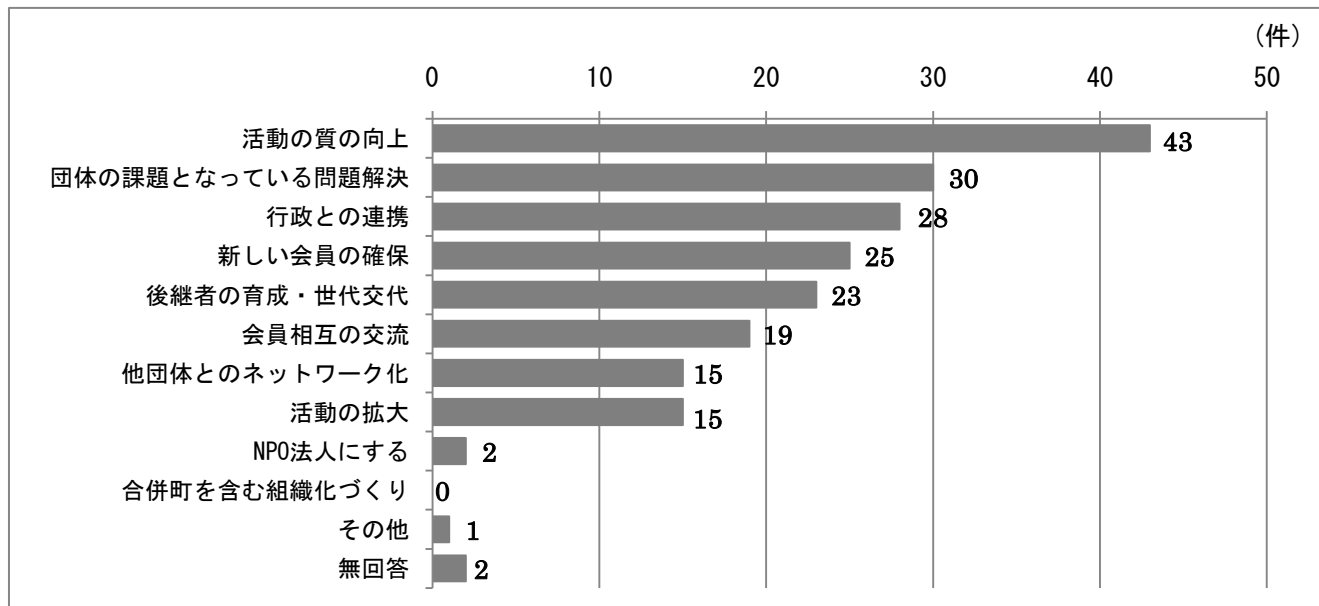
問 8-2 貴団体に男女共同参画を推進する部会
や担当部署などがありますか。
当てはまるものを1つ選んでください。



問 8-3 問 8-2 で「なし」の場合、部会をつくる
予定はありますか。
当てはまるものを1つ選んでください。



問 9 貴団体のこれからの活動の重点目標は何ですか。主なものを3つまで選んでください。



○ その他

- 1 会員高齢化等の団体の課題となっている問題解決
- 2 定期的な情報の発信等

【全体】

活動の重点目標のうち、活動の質の向上（43件）と、団体の課題となっている問題解決（30件）という回答が多く、全体の35%を占めていることから、団体の活動をさらに充実させるとともに、直面する課題に取り組んでいることが伺える。

問 10 男女共同参画に向けて、今後のキーワードとなるものは何だと思われますか。

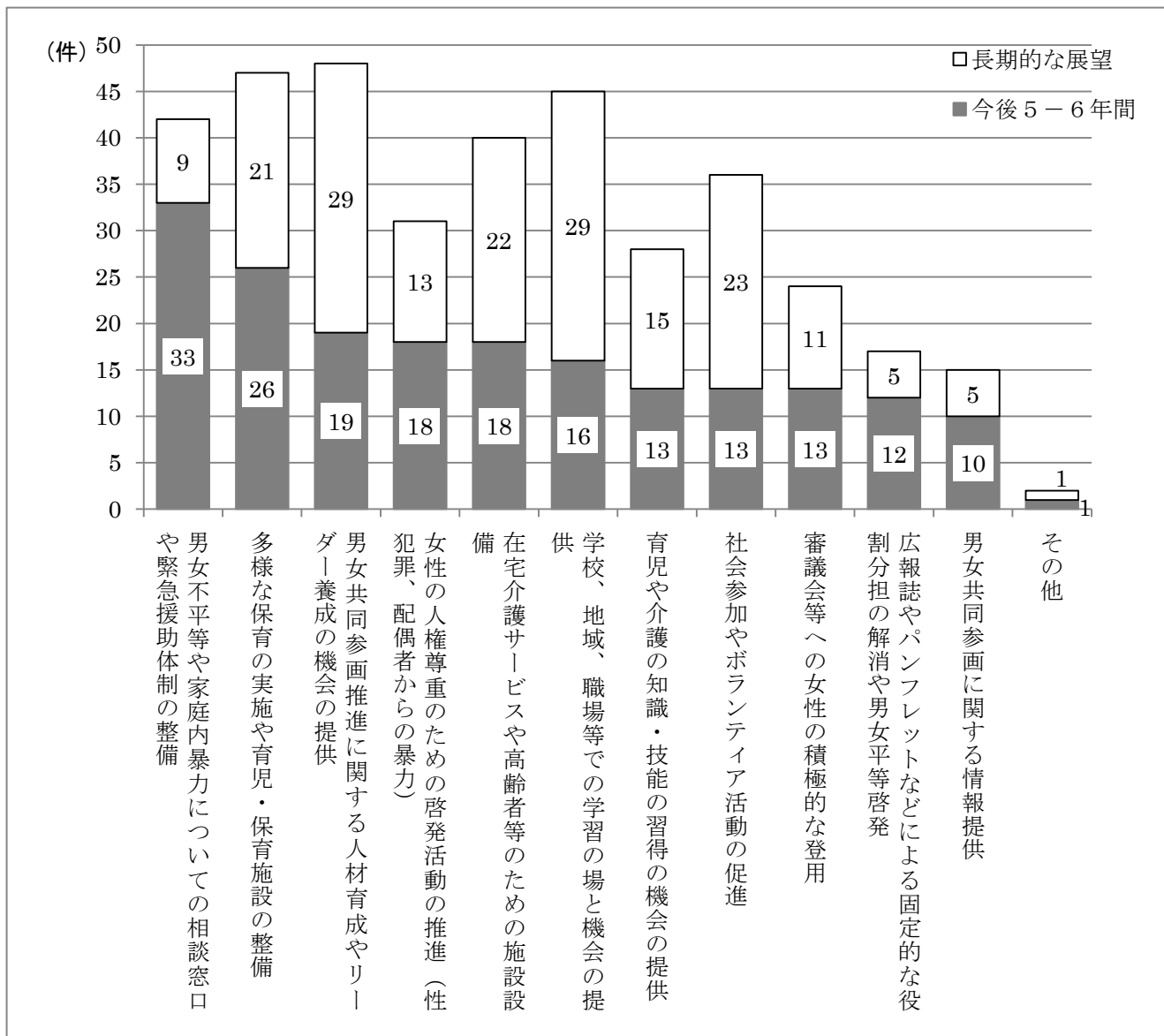
- 1 女性が働きやすい制度の確立
- 2 男女共生社会の推進
- 3 男性の参画
- 4 教育
- 5 行政の首長に女性が登用されること
- 6 子育て・介護・仕事
- 7 男女共同参画社会のもとはず家庭から
- 8 個人の能力を生かすことのできる社会づくり（男女・障害・年齢を問わず）
- 9 縦横の連携
- 10 少子高齢化対策
- 11 家族経営協定
- 12 お互いを認め合うこと
- 13 「誰もが生き生きと自分らしく生きることができる社会作り」という漠然としたものでは地域あるいは家庭団体の活動はできない
そのための具体的な内容を1～3個選出して、目標に向かって各自が活動することが肝要
- 14 これからは女性の時代
- 15 意識改革
- 16 男も女も、ワーク・ライフ・バランス
- 17 労働者の男女同一賃金・有給の相談・育児相談・介護休暇取得の促進
- 18 量ではなく質的転換
- 19 適材適所
- 20 女性の職場進出等（男女共同参画も含めて）を実現させようとするなら、教育の中で性による区別と性による差別の違いを学ばせるとともに、子育てについては母親の役割、父親の役割、お互いの親としての責任等についてしっかり中高生に対して教育をするとよいと思う。家庭教育の重要性だと思う。
- 21 目標から具体化へ
- 22 積極的な情報の発信、理解、協力、推進者の確保
- 23 行政も参加者もマスコミも自然体で仲良く
- 24 権利に対する義務の履行
- 25 男女間の相互理解と家族の協力
- 26 女性起業家
- 27 団塊世代の活用
- 28 学習による理解と連帯
- 29 (1) 男女の食育にかかわるバランス (2) 男性の育児参加 (3) 育児休暇のUP
- 30 偏見や社会全体の支援
(1) 男性の意識改革 (2) 地域コミュニケーションにおける女性の役割と地位
- 31 (3) 高齢男女の意識改革
- 32 活動の拡大を手伝ってくれる会員の確保
- 33 承認（相手を認める、受け入れる）
- 34 平等なチャンス
- 35 女性の自覚

〔ここからの質問は、調査票に回答している、あなた自身にお伺いします。〕

問 11 今後、だれもがいきいきと自分らしく生きることのできる社会づくりを進めるため、高松市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

「(1) 今後5～6年間に取り組むべき施策」および「(2) 長期的な展望のもとに取り組むべき施策」の2つの観点から、それぞれ3つまで選んでください。

また、具体的な取組方策についての枠の中にご意見があればお書きください。



【全体】

短期的に取り組むべき施策のうち、男女不平等や家庭内暴力についての相談窓口や緊急援助体制の整備(33件)と多様な保育の実施や育児・保育施設の整備(26件)への回答が多く、全体の30%を占めており、DV等の暴力対策や子育て支援に関する取組が求められている。

長期的に取り組むべき施策のうち、学校、地域、職場等での学習の場と機会の提供(29件)と男女共同参画推進に関する人材育成やリーダー養成の機会の提供(29件)への回答が最も多く、全体の31%を占めており、子どもから大人までの幅広い学習や男女共同参画に関する人材育成への取組が求められている。

総合的に比較すると、男女共同参画推進に関する人材育成やリーダー養成の機会の提供(48件)が最も多いので、高松市の施策として重点的に取り組む必要がある。

「(1) 今後5～6年間に取り組むべき施策」(具体的な取扱方法について)

- 1 女性審議委員の増員を
- 2 女性が社会の中で男女平等になる啓発ではなく、女性が社会に出られる機会の創出に力を入れてほしい
- 3 高松市ではいまだ女性の農業委員が一人もいない。
他の市では女性は次々と出ているので、高松市も考えて頂きたい。
- 4 ファミサポの充実。対象拡大を希望する。
学生(小・中・高)への道徳的な性教育、交通ルール、あいさつ等、具体的な学習時間を持つ。
- 5 推進者と行政との連携を蜜にする必要(2ヶ月に1回以上)
- 6 (1) 女性の家事育児をサポートする土台作りとその費用負担免除制度
(2) 性別世代別等における課題解決のための具体的な行動をどうとればよいか
- 7 小中高の男女別制服の廃止
- 8 (1) 能力のある女性を積極的に登用する
(2) 教育の場から母親・子どもたちに学習の機会を与えるために、男女共同参画を推進する人材を育成するべき
- 9 啓発活動だけではなく具体的な条例の施行など法的な整備をしていくと変化も早いのではないかと
- 10 男女参画社会に対する意識をどのように皆が共有するかが重要
- 11 (1) 市民団体のリーダーの若返りも必要かも
(2) 職員内部の意識改革
- 12 高齢者が生き生きと日常生活を送れる社会の充実(精神的・社会的・肉体的)や、シエロントロジー(創齡学)をもっと考える社会・地域であってほしい。
- 13 NPOや現場の当事者に近いネットワークとの協働
- 14 地域のボランティア等の協力の下、多様な保育の実施ができるよう法整備、施設整備の必要がある
- 15 社会づくりの検討の場に、生活者である市民の参加とその活用を期待する
- 16 (1) いじめの実態を把握し、ボランティア・NPO法人に状態をいただきたい(個人名等は必要としない)。また、どういう場所・場面でいじめがあったか背景等が知りたい。
(2) 学校も積極的にいじめに立ち向かう姿勢が必要で、いじめの発生に対し丁寧に取り組むことが大切である
- 17 (1) 少子高齢化社会への対応や保育所介護施設の増設
(2) 幼児虐待、デートDV、性犯罪等現状を把握できる市民からの通報がしやすいシステムづくり
(3) 審議会やコミュニティー協議会、自治会老人会等の役員に女性を登用する
(4) クウォーター制度を導入する

「(2) 長期的な展望のもとに取り組むべき施策」(具体的な取扱方策について)

- 1 “将来の自分”とか“明日は我が身”と思って、生活目線で今日より明日を良くしようと考えるだけでは見えてくるものがあると思う。
- 2 子育てや介護等女性の家庭での役割は大きく、その負担を少しでも行政機関が受け持つことで住みよい社会づくりが可能となる
- 3 各地域のリーダー育成
- 4 (1) 男女共同参画社会実現の意識改革を行うための学校教育・保育所や幼稚園の指導
(2) 地域活動支援者とその保護者に対する研修啓発
- 5 基本的人権についての教育(性別や年齢などで区別せず個々の人間として考えることができるように指導していく)
- 6 ボランティア参加等の高い自治体となるよう、学校の授業にもボランティアを入れる
- 7 (1) 高齢者が生き生きと日常生活を送れる社会の充実(精神的・社会的・肉体的)
(2) シェロントロジー(創齡学)をもっと考える社会・地域であってほしい
(3) 老後をどう過ごすかを若いうちから考える環境を
- 8 日本の歴史の中で培ってきた男性・女性の役割に関する垣根をいかに取り払っていくかが問題の一つであり、問題となっていることの情報を発信していくことが重要
- 9 地域のマンパワー、リーダー的人材を育成しながら、地域の中からの発信がネットワークとなる仕組みをつくる(長期的にみると必要であり、高齢者が地域を動かしている場合が多い)
- 10 核家族化が進んでいる現在、世代間交流の機会が少なくなっている(若者から高齢者までが一同に会して学んだり遊んだり共に何かを实践できる機会を設けることが必要)
- 11 ハイリスクアプローチ
- 12 定年後の人たちの社会参加の情報提供
- 13 既存の援助体制のあり方を考え直してみしてほしい
- 14 地域内の男女共同参画
- 15 市民の様々な意見を聞き、実際に高松市の職員担当者が常に課題と思っていることを片付けていくことも「社会づくり」の上では大きな変化となると思う。
- 16 (1) いじめにきちんと対応する教師を評価する
(2) 学校だけでいじめ問題を抱え込まない
(3) いじめ問題が発生した場合は隠さず学校全体で対応する風土をつくる
- 17 自治条例の制定により「自助・公助・共助」の3つの言葉を揚げたが、市民の「共助」に対する考え方があまり理解されていない(共に助け合うことの大切さを広めていきたい)

【自由意見】

- 1 委員会の人数をなるべく男女等しくすることや、土・日も検討するなど、出席できる日程を選ぶ
- 2 だれもがお互いを思いやることのできる社会、だれもが性別に関わりなく、個性・能力を発揮することのできる社会を目指して、社会意識の改革や家庭教育においても男女平等教育の推進が必要である
- 3 地域では古い慣習が根強く残っている。「女がでしゃばる」「責任あることは女に任せられない」など平気に声に出ることも。女性もそのことが当然と受け止めるなど、やはり認識の浅さを感じている。
- 4 各種団体等へ市の方から積極的に講演等してもっと勉強会をすべきと思う。
- 5 まだ認知度が低いので、あらゆる機会にPRが必要だと思う
- 6 女性の問題だけでなく、ファミリーサポート・緊急サポート・保育所・各種暴力・年金・介護等の問題に対して、一つの窓口で相談できる体制の整備を検討していただきたい
- 7 男女共同参画のとりくみは、女性が中心になるのではなく男性が積極的に取り組むことが必要
- 8 特に高松は転勤族家庭が多いので、そういう方々から他県や他市で行われている行政サービスなどを情報収集し、高松にあった形で提案していく（転居によって女性がキャリアの途中で諦めている場合も多いので、そうした女性の労働力を活用できる場をつくると、高松市のPRになると考える。）
- 9 「人にやさしくなれること」を今の若い人たちへ伝えることが大人の役割だと考える
心を育てる環境を小・中・高校生に学校教育の中で教えること
高齢者・障害者への思いやりなどは実際に体験することで理解が深まるので、ぜひ「まちづくりは人づくり」を忘れない高松市にしてほしい
- 10 (1) 男女共同参画について、関心のある人が固定化し、高齢者に集中している。若い人に参加してほしいがその方策が見出せないでいる。
(2) 真に能力のある女性が社会活動をしているロールモデルをマスコミが取り上げ、子ども時代から、そういう女性が男女で支えあって生きている姿を大切に扱ってほしい
- 11 他市に置ける男女共同審議会のあり方や先進地に学ぶことは大切（条例策定が必要では）
- 12 学校教育や社会や家庭のすべてにおいて協力や理解がなければ難しい
- 13 「男だから女だから」という考え方は、徐々に変わってきていると思うが、いまだに根強く残っていると感じる時がある。決めつけた考え方を改めていくためには、学習の場や啓発活動が大切だと思う。
- 14 (1) 地域活動への参加（特に男性の参加が低いと思われる）
(2) 団塊世代が定年を迎えている今日、これらの人たちが気軽に地域活動に参加できるような「動機付け」があればと思う
(3) ゆっくり話しあいができる場所の確保から地域活動の拠点整備も必要と思う
- 15 今回の調査をきっかけに男女共同参画について考えてみたい
- 16 意識が高い集団とまったく意識がなくきわめて問題が深刻化している集団との二極化が著しい。
- 17 (1) 男女共同参画については、自分自身の経験から能力のある女性が社会参加することは大賛成。また、その一方で、社会参加しなくてもそれはそれでOK。
仕事と家庭の両立は、私にとっては非常に苦しいものでした。特に子育ては祖母とか周囲のバックアップなしではできなかったと思う。特に夏休みの対策をどうにかしていただきたいと思う。（安心して母親が働けるように）
(2) 男女共同参画は、社会においても家庭においても共同参画ができるよう男性の働き方（を見直すことが必要と思われる（時短に積極的な企業風土を社会に広げていく事が大切）